

## 論文審査の結果の要旨

氏 名 <sup>フリガナ</sup> 鈴木 <sup>スズキ</sup> 秀顕 <sup>ヒデアキ</sup>

学位の種類 博士 (ソフトウェア情報学)

学位記番号 乙第 1 号

学位授与年月日 平成 29 年 3 月 21 日

学位授与の根拠 岩手県立大学学位規則第 3 条第 3 項 (論文博士の場合は第 3 条第 4 項)

学位論文題目 電子書籍の事業モデルに関する研究

論文審査委員 主査 布川 博士

副査 阿部 昭博、佐々木 淳

## 審査結果の要旨

電子書籍の普及が著しい。しかし一方では、その事業モデルは綿密には把握されておらず、電子書籍事業のポジショニングは不明確である状況である。このままでは、知の継承や文明の進展、文化の醸成の任を負っていた書籍そのものがすたれる恐れも考えられる。そこで、この論文では、電子書籍の事業モデルを整理・提案し、これまでの電子書籍研究の状況を分析することにより、今後の電子書籍に関する事業モデルについて考察している。

本論文は 7 つの章よりなっている。1 章において、電子書籍事業の背景、目的、当該論文の構成が述べられている。2 章においては、電子書籍をコンテンツの一部と捉え、コンテンツとしての電子書籍の先行研究調査を行っている。3 章において、電子書籍事業を検証するための指標となるモデルとして筆者独自の T S P モデルを提案している。T S P モデルの構造及び構成を示し、電子書籍事業の指標としての妥当性について検証している。検証は予備実験における考察と T S P モデルの特異点である立ち読み相当時間設定の有効性について検証している。4 章では、T S P モデルを指標として電子書籍事業について、時系列(世代)に従い分析している。5 章では、電子書籍事業における課題や可能性について、4 章で分析された筆者が提案した世代に分割し、研究文献の比較分類を行っている。6 章では、4 章、5 章での考察にフイージビリティスタディを加え、筆者の提案を事業として成立させるための方策を検討している。7 章ではそれまでの考察をまとめ、電子書籍の事業化における課題を明らかにし、今後の電子事業の研究課題と展望を示している。

情報を資源・資産として考える情報社会の中で、今後、電子化された情報(デジタルコンテンツ)はさらに膨大に増える。デジタルコンテンツの一つである電子書籍は、全く個人的なデジタルコンテンツである SNS や ブログ によるデジタルコンテンツとは異なり編集を経て出版されることが特徴である。虚偽ニュース(フェイクニュース)等、人々を(為政者としては国民を)欺くために流されるものと、書籍は大きく異なっている。従って、書籍は今後も社会の中で、知や文化を継

承し広めてゆく使命をもっている。この状況の中で、電子書籍「事業」の新たなモデルを提案している点は評価できる。

論文中でも言及されていることであるが、いくつかの課題も残している。電子書籍の生産分野として第4世代電子書籍に関するマーケティングマネジメントのフレームワークが未確立あること、消費分野として、消費者動向に基づいたデータを精査する必要があるが、その手法の確立が必要なことである。

しかし、本論文を全体として見れば、オリジナルの事業モデルを提案し、過去の文献を世代という点からまとめ、それらを2つの軸(生産-消費、書籍コンテンツ-それ以外)で丁寧に分析しており、本論文が目的としている、「電子書籍事業の事業モデルについて、指標となるモデルを基に整理する」には成功している。また、2編の原著論文(うち1編は英語)、1つの国際会議発表(査読付)を含め、外部発表により世に問うていることは博士の素養として評価できる。

よって、本論文は博士(ソフトウェア情報学)の学位論文として合格と認める。